

平成 29 年度実施 教員評価結果について

学 長

国立大学法人福井大学教員評価規程に基づき、平成 29 年度に実施した教員評価結果を、以下の通り公表します。

なお、SS 評価該当教員については氏名及び評価理由を公表し、S 評価該当教員については氏名を公表します。

1. 評価対象

教授・准教授・講師・助教、助手の全教員

2. 評価方法

①教育活動、②研究活動、③社会貢献・国際交流活動、④管理運営活動の4領域（ただし、医学部に所属し診療活動に従事する教員は、診療活動を加えた5領域。センター等では「センターの設置目的に合致した活動」を加えた5領域）について、評価を実施しました。

各領域の活動状況の評価及び総合評価を、次に掲げる評点及び標語に基づき行います。

SS 活動状況が極めて優れている

S 活動状況が優れている

A 活動状況が良好である

B 活動状況が適切である

C 活動状況に一部改善を要する

D 活動状況に問題があり大幅な改善を要する

なお、SS 及び S に該当する者の合計数は、評価対象者の5%を超えないものとして評価を行っています。

3. 評価結果

教員数	評価					
	SS	S	A	B	C	D
480 人	1.5%	3.1%	70.0%	24.6%	0.8%	0.0%

4. SS 評価該当教員

教員名：橋本 康弘	所属：教育・人文社会系部門 教員養成領域社会系教育講座	職：教授
<p>当人は教育，研究，社会貢献，管理運営の4領域すべてにおいて優れた業績を残している。教員養成領域における教員評価の観点からは，① 4領域におけるバランスの取れた活動業績 ②学部・研究科のミッションに合致した顕著な業績を有すること，の2点であるが，被推薦者はこれらを十分に満たしていると判断し，SSと判定した。具体的な判定理由は以下のとおりである。</p> <p>当人は社会科教育学を専門とし，特に法教育をテーマに，国際比較の視点も包含しながら精力的に教育，研究，社会貢献に取り組んできた。研究においては，科学研究費基盤Bおよび挑戦的研究（萌芽）各1件をいずれも研究代表者として獲得しており，その成果は著書（分担執筆）5編や学会誌（査読有）掲載の論文6編において公表されている。また，研究の成果を授業および地域貢献に継続的に還元している点は顕著な業績であり，特に県内外の学校や教育関連機関からの講演・講義，研究助言依頼は多数に及んでいる。</p> <p>さらに，管理運営面における貢献度も大きい。今期は，教育学部の中心的なミッションを担い推進するため，常設の委員会に加えいくつかのタスクフォースを設置したが，特に「再課程認定対応及びカリキュラムマネジメント検討タスクフォース」「現場実践6割タスクフォース」の主査および入試・広報委員会副委員長を努めた。また国の審議会等委員も2件務めており，同人の学内外での貢献はまことに大である。</p>		

教員名：安倍 博	所属：医学系部門医学領域行動科学分野	職：教授
<p>医学部副学部長として，医学部の教育全般の改善・改革に中心となって関わり，新たに教育支援センターを立ち上げ，医学部理念，カリキュラム・ポリシー，ディプロマ・ポリシー，アウトカム・コンピテンシー等の策定や，医学部の教育改革に喫緊の問題の解決，入試での多くの責任業務や唯一の心理学担当教員としての学生指導，学生総合データベースの構築など，3年間の業績は膨大な範囲に及んでいる。平成28年度には学長奨励賞（教育）を受賞しており，SSと判定した。</p>		

教員名：老木 成稔	所属：医学系部門医学領域分子生理学分野	職：教授
<p>イオンチャネルの分子メカニズム解明のための一分子研究において，インパクトファクターの高い国際一流誌に多くの業績を発表し，本学の先端医工連携研究推進特別区の特任研究者採択，2016年度には福井県版ミニ・ノーベル賞に位置付けられる第12回福井県科学学術大賞を受賞，さらに英国ケンブリッジ大学のシンポジウムでの招待講演を行うなど，医学部を代表する研究者としての活動は極めて優秀で，SSと判定した。</p>		

教員名：友田 明美	所属：先進部門 子どものこころの発達研究センター	職：教授
<p>児童虐待による愛着障害と脳の異常について，児童精神医学，小児神経学分野の研究成果を数多く発表し，福井大学の研究成果としてメディアを通じて報道されたほか，社会貢献に資する講演を3年間で128件行い，愛着障害と児童虐待防止の重要性に関する国民の理解を高めており，学術以外に広く社会に貢献し影響を与えている。これらの成果は子どものこころの発達研究センター寄附研究部門である児童青年期こころの専門医育成部門の設置にも発展しており，SSと判定した。</p>		

教員名：腰地 孝昭	所属：医学系部門医学領域外科学（2）分野	職：教授
<p>附属病院長として病院の管理運営全般をリードし、病院再整備事業の大幅な予算超過など困難な状況下においても明確な目標設定と診療科ごとの指導を行って、年率5%以上の附属病院収益の増加を達成し、経営の健全化に大きく寄与した。また、新病棟臓器疾患別センター化の推進、集中治療部の集約的特命助教配置など病院の機能強化に新しい戦略を展開し成功を収めた。同時に、教育、社会貢献などでも高い評価を得ており、この間の業績は多大であるため、SSと判定した。</p>		

教員名：明石 行生	所属：工学系部門建築建設工学講座	職：教授
<p>教育面においては、留学生の指導に加え、工学部のTOEICスコア向上のための集中講座などの取り組み、語学センターと協同した英語PBL教育の実施などグローバル人材育成に貢献した。また、指導学生の学会表彰の9年連続受賞、平成26年度学長奨励賞（教育）受賞など顕著な教育業績が認められる。</p> <p>研究面においては、薄明視研究について論文賞（平成28年）を受賞したうえ、国際会議で招待講演している。企業との共同研究の成果が実用化されたLED光源が広く普及している点は、第2期中期目標期間の評価において高く評価された。また、国際学会の委員会Chairとして高齢者と弱視者のための照明ガイドライン作成に貢献するなど、顕著な研究業績が認められる。</p> <p>社会貢献・国際交流活動、管理運営活動においては、国際担当の学長補佐として、語学センター計画への参画、GGJの推進、中期目標・計画策定への参画など大学の国際通用性向上に貢献した。また、学生と取組むイルミネーションは、大学の地域貢献として広く報道されている。工学研究科高度人材育成センター長として大学院教育支援するなど管理運営面でも貢献した。</p> <p>以上の理由からSSと判定した。</p>		

教員名：谷 正彦	所属：先進部門遠赤外領域開発研究センター	職：教授
<p>教育面においては、フィリピンから国費外国人留学生1名（H26-H28 工学研究科博士後期課程在籍、H28年度末学位取得）を受け入れ、研究指導するとともに、フィリピン大学を受け入れ先とする大学院の海外研修プログラムを毎年実施するなど、本学における教育のグローバル化に貢献した。</p> <p>研究面においては、評価期間中に総額6,000万円以上の研究資金を獲得するとともに、国内および国際的な連携に基づくテラヘルツ波技術に関する研究を幅広く展開し、優れた研究成果を上げた。研究者としての研究に対する貢献度を示すh-indexはScopus上で41、Google Scholarでは48である。</p> <p>社会貢献・国際交流活動、管理運営活動においては、テラヘルツ波に関する本学のシーズ技術を応用した製品を国内外の研究者に提供することを通じて産学連携に貢献するとともに、海外の研究機関との3件の新規共同研究覚書の締結、および1件の学術交流協定の更新を主導し、本学のグローバル化に貢献した。また、平成26年度より遠赤外領域開発研究センター長を務め、センターの教育・研究活動の活性化、各年度の中期計画・中期目標の達成、概算要求新規事業の提案と実施、国際研究部門の新設による組織整備など、センターの管理運営において多大な貢献があった。</p> <p>以上の理由からSSと判定した。</p>		

5. S 評価該当教員

教員名	所属	職
岸 俊行	教育・人文社会系部門教員養成領域発達科学講座	准教授
湊 七雄	教育・人文社会系部門 教員養成領域芸術・保健体育教育講座	准教授
磯崎 康太郎	教育・人文社会系部門総合グローバル領域	准教授
飯野 哲	医学系部門医学領域解剖学分野	教授
定 清直	医学系部門医学領域ゲノム科学・微生物学分野	教授
石塚 全	医学系部門医学領域内科学（3）分野	教授
冨田 浩	医学系部門医学領域循環器内科学分野	教授
五井 孝憲	医学系部門医学領域外科学（1）分野	教授
藤枝 重治	医学系部門医学領域耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	教授
長谷川 美香	医学系部門看護学領域地域看護学分野	教授
山田 徳史	工学系部門情報・システム工学講座	教授
橘 拓至	工学系部門情報・システム工学講座	准教授
小嶋 啓介	工学系部門建築建設工学講座	教授
中根 幸治	工学系部門繊維先端工学講座	教授
米沢 晋	基盤部門産学官連携本部	教授